

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	ほうせいだんちーず	
まちづくり 活 動 名	豊成団地のゆるやかで新しい地域コミュニティづくり	
活 動 地 域	名古屋市中川区豊成町（豊成団地）および愛知学区	
活 動 の 背 景	（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） 当団地は町内会に加入せず、住民同士はすれちがってもエレベーターで一緒になっても挨拶もないなど日常的にも関わりが薄い。外国籍の人や高齢単身世帯も多く、何らかのつながりが必要だと感じた住民が中心となって活動をスタートした。	
目的・目標	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください） ■目的 団地住民および当該地域の町内会の連携を得ながら、町内会に代わるゆるやかで新しい地域コミュニティの創出。 ■目標及び効果 団地内のコミュニケーションが活発になり、知り合いが増え、顔を合わせれば挨拶ができる関係性。住民がゆるやかにつながる。また、イベントなどを通してLINE公式アカウントの登録者が増え、平時及び災害時に情報共有ができるようになることを目指す。	
活 動 内 容	（上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。） <u>1 月1回のお散歩ゴミ拾いの実施</u> 団地内で待ち合わせをして、移動中の道路に落ちたゴミを拾いながら、近くの目的地までお散歩をする。わかりやすいよう第3木曜日に固定。 <u>2 地域情報をLINE公式アカウントで発信</u> 愛知学区の町内会と連携し、回覧板配布資料から有用な情報をピックアップし、団地および周辺住民に発信する。Instagramも活用。 <u>4 1および2の周知のためのイベントの開催</u> 団地内で住民対象のイベントを企画・実施する。 ・本に関するイベント（ほうせいだんちーず文庫を増強し、集会所の魅力アップを図る企画） ・リサイクルデー（昨年実施したものが好評だったため、今年度も実施予定。高齢者や外国人居住者とのコミュニケーションの機会に） <u>5 今後の活動の参考になる活動をヒアリング</u> UR都市機構、学区と連携しながら活動を広げていくためのヒアリングや勉強会を実施。	
活 動 予 定 間 期	令和 6 年 6 月 ～ 令和 7 年 2 月	
助成金交付申請 額	100,000円	※1回目（上限5万円） ※2回目、3回目（上限10万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)	
・同じ建物に住んでいても、全く誰とも関わらない現状の異常。住民が自分の身近に住んでいる人のことを知り、関わり合うことは地域防災にも役に立つうえに、よい地域コミュニティとなれば、住民それぞれのQOL（生活の質）が上がることとなる可能性が十分あることを知っていただく必要がある。 ・コミュニティの連絡手段がない状態から、現在公式 LINE アカウント登録者が 130 名となった（初年度 33 名、2 年目 61 名）。イベントや活動を通してさらに登録者を増やし、いざという時の連絡手段へと育てていく。地道な継続が必要。	
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)	
・継続的なお散歩活動に加えて、2 回程度のイベントの実施を予定。内容は団地内のイベントに合わせたものやこれまでの活動で好評だったものの中から決定する。 ・団地の管理者 UR 都市機構との連携が実現し、会場代や印刷費の一部は当団体での負担が必要なくなったので、文房具等、細かな消耗品を当方で負担する計画とした。 ・参加メンバーから発案された企画を実施するなど、できるだけ自然発生的なイベントになるよう、また、主催者も参加者も楽しめるように工夫する。	
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)	
2 年間の助成を通じて、地域（愛知学区連絡協議会）および団地管理者（UR 都市機構ウェルフェア推進課）との連携が広がり、協力関係が進んでいる。 ＜地域（愛知学区連絡協議会）との連携・協力＞ ・回覧物の仕分けを手伝い、一部つつ提供していただくことで LINE 公式アカウントの運用が進んだ。昨年度には団地内掲示用にポスターの部数を増やしていただき、地域の掲示板に掲示されるポスターが団地内にも掲示できるようになった。 ・学区ホームページに「ほうせいだんちず」のページを作成すると提案いただき、当方で更新を開始。イベントの告知や報告などの情報発信ができるようになった。 ・民生委員や選挙推進活動の役員について打診があり、団地住民が地域活動に関わるきっかけについて話し合うようになった。民生委員は改選時期に合わせて具体的な話をするようになっており、選挙推進委員は当団体メンバーが務めることとなった。 ・学区の電子回覧板や方法発信について相談を受けるようになった。 ・イベント実施時に会場（コミュニティセンター）の無償提供をいただいた。 ・団地内で実施したイベントを学区でも計画、相談を受けるようになった。 ＜団地管理者（UR 都市機構ウェルフェア推進課）との連携・協力＞ ・イベントの実施について事前に相談ができるようになり、リサイクルデーでは、事前収集物品の保管場所の提供、当日の会場提供、チラシの印刷、チラシの全戸配布、事前及び当日の人的協力（各日 3 名）など、具体的な連携や協力が広がった。また、事前収集のために「集会所解放デー」を UR 側で実施、住民が来訪しやすい機会となり、リサイクルデー終了後も継続することとなった。今年度のイベントについても、チラシの印刷や全戸配布など積極的に協力いただける予定。昨年度は実施のための話し合いからスタートしたが、今年度は年度計画から話し合っている。 ・UR の施策で高齢住民をサポートする「生活支援アドバイザー」が置かれることとなり、情報共有を行うことでお互いのイベントの周知などができるようになった。	

<団地活動団体（らくらく日本語教室）との連携・協力>

リサイクルデーの多言語チラシ・ポスターの作成に協力いただいたことで外国人居住者への周知が広がった。今年度はらくらく日本語教室の「ほうせいだんちしんぶん」の作成協力を予定（すでに4月よりスタート）している。おさんぽのスタート地点をらくらく日本語教室の実施日の集会室前に変更して、参加者がつながるような工夫もはじめた。

<消防署との連携・協力>

地域との関わりの機会を模索する消防署職員が、お散歩おそうじに参加したり、UR 都市機構主催の防災イベントに協力したりするようになった。LINE グループでつながっているため、情報の共有や連携がやりやすくなった。

以上のように、周辺の多様な団体との連携・協力が広がっており、その手法もイベント実施時の告知や当日の手伝いのような単発のものから、共同企画や経費配分の相談など、各団体が得意な部分を持ち寄りイベントをともに作りあげていくようなものへと変化している。今後は、より各団体の趣旨や目的を大切にした連携や協力を広げていくことで、団地内および地域全体でのゆるやかなコミュニティ形成をすすめていきたい。

- 3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
・愛知学区連絡協議会 ・UR 都市機構ウェルフェア推進課 ・中川区社会福祉協議会 ・らくらく日本語教室 ・あいち医療生協「いりゃ～せサロン」 ・社会福祉法人フラワー園 ・株式会社近藤印刷	・回覧物・配布物の仕分け手伝いと共有 ・活動の連携 ・オープンカフェWG との連携ほか ・告知の相互協力 ・告知の相互協力 ・告知の相互協力、お散歩の共同開催ほか ・告知の相互協力、お散歩の共同開催ほか

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2024	通年	おさんぽ LINEによる情報発信	近隣の目的地までゴミ拾いしながらお散歩 回覧物の情報や近隣の情報を発信
	5		
	6	今年度実施内容打合	UR、学区などとも連携しながら内容を決定
	7	オリジナルグッズの 作成	ステッカーなど
	8		
	9	本に関するイベント 準備	
	10	本に関するイベント 実施	（UR主催「あいちフェスタ」と連携し、ほうせいだんちーず文庫を増強するイベントを想定）
	11	リサイクルデー準備	告知ツールの作成、多言語化など
	12	リサイクルデー準備	事前収集の準備
2025	1	リサイクルデー準備	事前収集
	2	リサイクルデー実施	イベント実施
	3	今後の方針検討	

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				100,000
活動経費の内訳	消耗品費	お散歩ゴミ拾い	軍手、火ばしなど（8回実施）	5,000
		お散歩ゴミ拾い	参加記念品（複数回参加者に進呈） @250×20個	5,000
		イベント	コピー用紙、トナー	5,000
			文房具（ペンなど）	5,000
			工具・道具（ゴム軍手、ひも、はさみ、雑巾、ウェットティッシュ、巻き尺、延長コードなど）	15,000
	物品費	本に関するイベント	本棚（カラーボックス3つ程度）	5,000
	印刷製本費	本に関するイベントほか	だんちーず文庫貼付用ステッカー 1,000部 ※イベント参加者に配布も	40,000
		イベント	2件のイベント周知に関する印刷物 （カラーコピー） チラシ 200部 ポスター 50部	10,000
	謝金	ヒアリング	ゲスト謝金	10,000
	支出合計			100,000

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。